



「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた
第4次産業革命の経済社会を担う創造的な地域職業人を
育成するための学習・指導方法及び評価方法に関する研究

愛知県立豊橋商業高等学校

教諭 青山 将典

1. はじめに

本校は明治39年に創立され、愛知県東三河地方における商業教育の中心校として、今年で創立114年目を迎える伝統校である。全校生徒数は835名で、1年次は全員が商業科として在籍し、2年次以降、総合ビジネス科（1クラス）、経理科（2クラス）、情報処理科（2クラス）、国際ビジネス科（2クラス）に分かれ、それぞれの学科の特長を生かした教育活動に取り組んでいる。

2. 研究概要

(1) 主題設定の理由

近年のAIやIoT等の技術の急速な進歩は第4次産業革命とも称され、経済活動に加え、公共サービス等の幅広い分野、人々の働き方及びライフスタイルにも影響を与えている。約半数が就職する本校においては、この変化に対応できる創造的な地域職業人の育成が急務となっている。創造的な発想ができる人材を育成するには、商業教育の中で主体的に学び続け、自ら能力を引き出し、試行錯誤して多様な他者と協働して新たな価値を生み出す力を身に付けさせる学びが必要となる。

そこで、教育課程研究指定校事業の委嘱を受けた2年間（平成30年度・令和元年度）、ビジネス課題の発見と解決を通して、創造的な地域職業人の育成を目指した「深い学び」の実践につながる学習・指導方法及び評価方法の研究を、教科「商業」の総合科目である「課題研究」で行うこととなった。なお、本校では2年生で1単位、3年生で2単位「課題研究」を設定している。

(2) なぜ科目「課題研究」なのか

本校の「課題研究」（3年生）は各学科の特長を踏まえ、販売実習や地域と連携・協働した取組を主とした延べ28講座を設定している。しかし、そのほとんどが「例年通り」、「昨年度踏襲」と工夫がないまま年間学習指導計画を進め、多忙感や徒労感が増していくだけで、取組や活動そのものが終われば教員側も生徒側も目標を達成した感覚になっていた。このような現状を受け「課題研究」の科目目標に立ち戻り、各講座の学びを通して生徒がビジネスに関する課題発見から解決に向かうプロセスを再構築することで、各学科が育成すべき資質・能力を一層高められるとの考えに至った。

総合ビジネス科（3講座）

(1) 調査、研究、実験	高大連携
(2) 作品制作	
(3) 産業現場等における実習	インターンシップ、ショップ豊商
(4) 職業資格の取得	

経理科（7講座）

(1) 調査、研究、実験	スクールプロモーション、高大連携
(2) 作品制作	商品企画
(3) 産業現場等における実習	インターンシップ、小中高連携、ショップ豊商
(4) 職業資格の取得	会計研究

情報処理科（7講座）

(1) 調査、研究、実験	交通量調査
(2) 作品制作	マルチメディア演習
(3) 産業現場等における実習	インターンシップ、地域連携、ショップ豊商、高短連携
(4) 職業資格の取得	ビジネスライセンス

国際ビジネス科A（1講座）

(1) 調査、研究、実験	
(2) 作品制作	
(3) 産業現場等における実習	インターンシップ
(4) 職業資格の取得	

国際ビジネス科B（4講座）

(1) 調査、研究、実験	英会話ビジネス、起業家育成
(2) 作品制作	
(3) 産業現場等における実習	インターンシップ、ショップ豊商
(4) 職業資格の取得	

▲ 科目「課題研究」（3年生）各学科講座一覧

(3) グランドデザイン・ルーブリックの作成

研究の第一歩として育成すべき資質・能力及び目指すべき生徒像を確立させるため、学校のグラ

ンドデザインに基づき、各学科のグランドデザインを作成した。

次いで学科ごとに生徒が身に付けるべき資質・能力の評価基準となるルーブリックを作成した。各学科ではルーブリックで設定した資質・能力のどの項目を設定講座の目標として育成するか、現授業担当者が検討し年間学習指導計画表を見直すこととした。

下記2つの図はこちら ▶



目指すべき人材像

「第4次産業革命の経済社会を担う創造的な地域職業人」

- AI、IoTと共存しながら地域社会のために自ら課題を発見し、課題解決のために主体的かつ協働的に取り組むことができる人材

【経理科の目標】

簿記会計の役割を理解し、その能力を活用できる人材の育成

【目指す生徒像】

○会計分野の知識について自信をもつことができる人材
○簿記会計の役割を理解し、職業人としての意識をもつ人材
○自ら課題を発見し、解決のために主体的かつ協働的に取り組むことができる人材

【何ができるようになるか】 ※経理科の学習を通して育成すべき資質・能力

①業務に即した会計分野の知識と技術を習得し、社会的役割を理解することができる。
②職業人としての倫理観を培うことができる。
③自ら課題を見出し、知識をもとに課題に対して創造的に解決する能力を身に付けることができる。
④ビジネスの諸活動で主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けることができる。

【科目「課題研究」におけるアプローチ】

○シヨップ業務 ○インターンシップ ○高大連携 ○産商スクールプロモーション

▲ 経理科グランドデザイン (抜粋)

達成度	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
1 簿記の基礎知識の習得	簿記の基礎知識を習得し、簿記の役割を理解している。	簿記の基礎知識を習得し、簿記の役割を理解している。	簿記の基礎知識を習得し、簿記の役割を理解している。	簿記の基礎知識を習得し、簿記の役割を理解している。
2 簿記の応用知識の習得	簿記の応用知識を習得し、簿記の役割を理解している。	簿記の応用知識を習得し、簿記の役割を理解している。	簿記の応用知識を習得し、簿記の役割を理解している。	簿記の応用知識を習得し、簿記の役割を理解している。
3 簿記の実践力の習得	簿記の実践力を習得し、簿記の役割を理解している。	簿記の実践力を習得し、簿記の役割を理解している。	簿記の実践力を習得し、簿記の役割を理解している。	簿記の実践力を習得し、簿記の役割を理解している。
4 簿記の応用実践力の習得	簿記の応用実践力を習得し、簿記の役割を理解している。	簿記の応用実践力を習得し、簿記の役割を理解している。	簿記の応用実践力を習得し、簿記の役割を理解している。	簿記の応用実践力を習得し、簿記の役割を理解している。

▲ 授業で活用する共通のルーブリック評価表 (経理科・抜粋)

(4) 講座の取組例

研究の2年目は、見直した年間学習指導計画表を基に授業実践を行った。

経理科のインターンシップ講座は、2年次までに学習した会計分野の知識を基に税理士事務所就業体験を行う講座である。授業担当者はこの講座が求める資質・能力を、経理科のルーブリックから下図のように選択した。

インターンシップを授業として行う上で一般的に評価の対象となるのが、「コミュニケーション

能力の向上」や「ビジネスマナーの向上」である。しかし、その評価基準を客観的に設けることは極めて困難である。なぜなら、インターンシップは学校外で行っており、教員が評価するには生徒の実習現場に行き、長時間観察しなければならないからである。そこで、授業担当者はコミュニケーション能力やビジネスマナーの向上については生徒の自己評価のみにとどめた。新たに下図のような自己の課題発見のためのワークシートを作成し、生徒の自己評価に基づき「現時点での自己の課題」と「課題についての解決方法」を探らせ、ワークシートへの記載内容をルーブリックに基づき評価することとした。このように、各講座で育成できる資質・能力を決め担当者ごとにどのようにアプローチしていくか、具体的な方策を立てて研究を進めた。

下記2つの図はこちら ▶



達成度	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
1 自ら課題を見出し、知識をもとに課題に対して創造的に解決する能力を身に付けることができる	現状を分析し、目的や課題を明らかにし、準備する力	考えられたテーマから問題を設定し、その問題を取り上げた理由など、定めていくことができる。	考えられたテーマから問題を設定し、その問題を取り上げた理由など、定めていくことができる。	考えられたテーマから問題を設定しているが、その問題を取り上げる理由などを述べることができない。
2 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力
3 ビジネスの諸活動に積極的に取り組む態度を身に付ける	自分の意見を分かりやすく伝える力	相手の興味を引くように話し、自分の意見を述べることができる。	相手の理解できるように話し、自分の意見を述べることができる。	伝えたい内容を相手に伝えることができない。

▲ インターンシップのルーブリック (抜粋)

2 自らの専門的な能力を素直な力に認められ、仕事を任されている。	4	3	2	1
3 目的意識を持ち、将来のために自ら進んで知識や技術の向上に努めている。	4	3	2	1
4 これまでの学習や経験から自己能力を客観的に評価し、仕事に活かしている。	4	3	2	1
5 これまでの学習や経験から専門的知識を身に付け、高い生産性を発揮している。	4	3	2	1

実習における基本的態度・能力について、自分にとってどのようなところが課題だと考えられますか。(箇条書き可)

自己の課題について、解決するためには何にどう取り組んだら良いと考えますか。(箇条書き可)

自己評価	1	2	3	4
1 現状を分析し、目的や課題を明らかにし、準備する力	4	3	2	1
2 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力	4	3	2	1
3 ビジネスの諸活動で主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける	4	3	2	1
4 自分の意見を分かりやすく伝える力	4	3	2	1

▲ 自己課題発見のためのワークシート (抜粋)

(5) 2年生科目「課題研究」(PBL 講座)

本研究を進めていくと、生徒自身がビジネス課題を発見してそれを解決していくという過程が、3年生の2単位のみでは難しいことがわかつ

てきた。そこで、3年生の「課題研究」の準備段階として、2年生1単位の「課題研究」においてPBL (Problem-Based Learning) を取り入れた年間学習指導計画の策定を行い、研究2年目より実施、検証を行った。

a. PBL 授業の流れ

表1のような学習過程を展開し授業マニュアルを作成した。この学習過程は1学期間を1回転とし、今年度は2回転実施することができた。

順序	学習過程	学習形態
1	課題の提示	グループ
2	課題の分析	グループ
3	研究計画の策定	グループ
4	問題解決	グループ
5	発表表	グループ
6	レポート作成	個人
7	振り返り	個人

▲表1：学習課程と学習形態

b. 評価方法について

この授業を評価するにあたり、授業のはじめに、育成する資質・能力を示したルーブリックを生徒に提示し、どのように評価するか説明した。

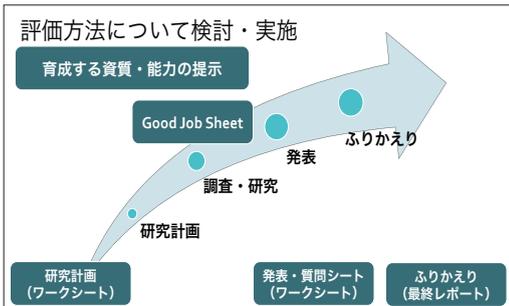
学習過程ごとに、ワークシートやレポート、振り返りシートを活用し、それを、各講座で決めたルーブリックと照らし合わせて評価を行った。



2年 経理科「課題研究」PBL の評価標準

	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
自ら課題を見いだし、知能をもとに課題に対して積極的に解決する能力を身に付けることができる	自ら見いだした課題を分析し、その問題を取り上げた理由など、簡潔に説明することができる。	自ら見いだした課題を分析し、その問題を取り上げた理由など、簡潔に説明することができる。	自ら見いだした課題を分析し、その問題を取り上げた理由など、簡潔に説明することができる。	自ら見いだした課題を分析し、その問題を取り上げた理由など、簡潔に説明することができる。
自ら課題を見いだし、知能をもとに課題に対して積極的に解決する能力を身に付けることができる	課題の解決に向けたアプローチの考えを明らかにすることができる。	課題の解決に向けたアプローチの考えを明らかにすることができる。	課題の解決に向けたアプローチの考えを明らかにすることができる。	課題の解決に向けたアプローチの考えを明らかにすることができる。
自ら課題を見いだし、知能をもとに課題に対して積極的に解決する能力を身に付けることができる	自ら課題に基づいた課題解決案を提示できる。	自ら課題に基づいた課題解決案を提示できる。	自ら課題に基づいた課題解決案を提示できる。	自ら課題に基づいた課題解決案を提示できる。
自分の意見を多岐にわたる観点から提示し、他のメンバーの意見と対話し、課題を解決する能力を身に付けることができる	相手の意見を尊重し、自分の意見を述べることが出来る。	相手の意見を尊重し、自分の意見を述べることが出来る。	相手の意見を尊重し、自分の意見を述べることが出来る。	相手の意見を尊重し、自分の意見を述べることが出来る。
ビジネスの課題に対して適切な解決策を提示する能力	自分の意見に即した質問を行うことができる。	自分の意見に即した質問を行うことができる。	自分の意見に即した質問を行うことができる。	自分の意見に即した質問を行うことができる。
発表の場において、自分の意見を明確に伝えることができる	発表の場において、自分の意見を明確に伝えることができる。	発表の場において、自分の意見を明確に伝えることができる。	発表の場において、自分の意見を明確に伝えることができる。	発表の場において、自分の意見を明確に伝えることができる。
発表の場において、自分の意見を明確に伝えることができる	発表の場において、自分の意見を明確に伝えることができる。	発表の場において、自分の意見を明確に伝えることができる。	発表の場において、自分の意見を明確に伝えることができる。	発表の場において、自分の意見を明確に伝えることができる。

▲授業で提示したルーブリック評価表



▲各アプローチを評価する流れのイメージ

Good Job Sheet(課題研究振り返りシート)

2年 組 番 氏名		月 日 (提出日)			
今週の反省、進捗状況、残存課題など					
自己評価	グループに対する貢献度	4	3	2	1
	成果物に対する満足度	4	3	2	1
	授業に積極的に参加したか	4	3	2	1
	グループに対する貢献度	4	3	2	1

▲ Good Job Sheet (抜粋)

「Good Job Sheet」とは、1時間ごとの授業の反省、進捗状況、残存課題及び研究グループの班員の評価を行うワークシートである。

c. 3年生「課題研究」の講座選択に向けて

3学期において次年度の自己課題を明確にするため、生徒に対し自己探求シートを記載させた。これは、各学科の目指す資質・能力がどの程度できているかを生徒に自己評価させ、次年度の課題を明確にさせるシートである。記入後はグループワークでお互いの良い点や改善点を共有し、自己課題について発表を行った。そして、3年生の「課題研究」各講座が目指す資質・能力を提示することにより、自己の取り組むべきビジネス課題を発見し、解決できる講座を選択できるようにした。



2年 経理科「課題研究」自己探求シート

この自己探求シートは、次年度（3年生）の「課題研究」の講座を決定する大切なシートです。今までの「課題研究」を含め、全ての商業科目の授業を通して自身を振り返り、記入してください。

- I 今までの授業における基本的態度・能力
 4: かなりできている(高いレベル) 3: できている(標準レベル) 2: できている(低いレベル) 1: できていない(低いレベル)

項目	身に付けてはいないか	評価標準	自己評価	自己評価の理由(記入)
適切な取引の記録及び財務諸表を作成する力	①	① 取引内容が正確に記録されている	4 3 2 1	
	②	② 取引内容が正確に記録されている	4 3 2 1	
	③	③ 取引内容が正確に記録されている	4 3 2 1	
会社情報に関するデータを読み取り、取引内容を分析する力	①	① 取引内容を分析する方法を知っている	4 3 2 1	
	②	② 取引内容を分析する方法を知っている	4 3 2 1	
	③	③ 取引内容を分析する方法を知っている	4 3 2 1	
自ら課題を見いだし、知能をもとに課題に対して積極的に解決する力の認識	①	① 自ら課題を見いだす方法を説明できる	4 3 2 1	
	②	② 自ら課題を見いだす方法を説明できる	4 3 2 1	
	③	③ 自ら課題を見いだす方法を説明できる	4 3 2 1	
自分の意見を多岐にわたる観点から提示し、他のメンバーの意見と対話し、課題を解決する能力を身に付けることができる	①	① 相手の意見を尊重し、自分の意見を述べることが出来る	4 3 2 1	
	②	② 相手の意見を尊重し、自分の意見を述べることが出来る	4 3 2 1	
	③	③ 相手の意見を尊重し、自分の意見を述べることが出来る	4 3 2 1	
ビジネスの課題に対して適切な解決策を提示する能力	①	① 自分の意見に即した質問を行うことができる	4 3 2 1	
	②	② 自分の意見に即した質問を行うことができる	4 3 2 1	
	③	③ 自分の意見に即した質問を行うことができる	4 3 2 1	
発表の場において、自分の意見を明確に伝えることができる	①	① 発表の場において、自分の意見を明確に伝えることができる	4 3 2 1	
	②	② 発表の場において、自分の意見を明確に伝えることができる	4 3 2 1	
	③	③ 発表の場において、自分の意見を明確に伝えることができる	4 3 2 1	

- II 自ら課題を見いだし、知能をもとに課題に対して積極的に解決する力の認識
- 上記の自己評価より今後の自己の課題を挙げないこと(記入で済ませること)
 - 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10) 11) 12) 13) 14) 15) 16) 17) 18) 19) 20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35) 36) 37) 38) 39) 40) 41) 42) 43) 44) 45) 46) 47) 48) 49) 50) 51) 52) 53) 54) 55) 56) 57) 58) 59) 60) 61) 62) 63) 64) 65) 66) 67) 68) 69) 70) 71) 72) 73) 74) 75) 76) 77) 78) 79) 80) 81) 82) 83) 84) 85) 86) 87) 88) 89) 90) 91) 92) 93) 94) 95) 96) 97) 98) 99) 100)

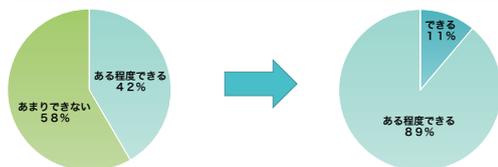
▲ 経理科「自己探求シート」(抜粋)

3. アンケート調査の実施

研究成果を測るために3年生を対象にアンケートを行った。アンケート内容は、4月に自分が身に付けたい資質・能力は何かを回答させ、それに伴い設定した評価基準によりどの程度身に付いたかを測るため、12月に再度アンケートを行った。

科目「課題研究」の各講座において自ら設定した課題の解決を目的とした振り返りによる研究分析

**経理科 インターンシップ講座
与えられた仕事に対して自らの考えを基にそれ以上の成果を出すこと**



経理科のインターンシップ講座では上図のように4月時点では「ある程度できる」が42%、「あまりできない」が58%であったが、12月のアンケートでは「あまりできない」と回答した生徒はおらず、全員が「できる」「ある程度できる」という結果であった。

すべての講座がこのような良い結果となったわけではない。「できる」割合が伸びた講座もあれば、「できない」割合が伸びた講座もあった。次年度以降はこのデータを基にブラッシュアップし、年間学習指導計画及びパフォーマンス課題等の方法を再考していく。

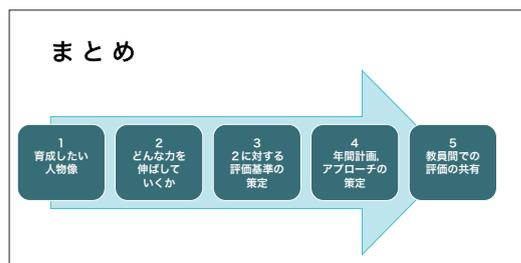
4. 成果と課題

2年間の研究を通して、学習過程の検討、評価方法の共有及び授業改善に対して、商業科教員全体の意識が向上した。例年踏襲型の「課題研究」の講座内容をいかに生徒のための授業にしていくかを念頭に、商業科会で何度も授業検討会を重ねることができた。また、どのようなパフォーマンス課題を与えることが目指す資質・能力の育成につながるかを話し合う機会が増え、多様な学習・指導方法が生まれた。さらに、2年生から3年生への準備段階で教育計画が策定できたことも大きな成果であった。

一方課題としては、グランドデザインとルーブリックは毎年の見直しが必要であると分かってきた。商業科の教員は各学科を越えて授業を担当しているため、各学科で策定したグランドデザインやルーブリックが細くなるにつれ、そのことを意識した授業をすることが難しい。目標に準拠した評価が容易にできる、統一した評価基準を示していけるように今後も研究を行っていく予定である。その他にも、育成する資質・能力の到達目標に達していない生徒への学習支援体制を整えるために、育成する資質・能力の到達点がルーブリックのどのレベルかを明確化することも必要となった。

5. まとめ

本校では、これまで紹介したように「課題研究」を中心とした地域と連携した授業を数多く行っており、新教育課程策定においても、地域との関わりをどのように教育課程の中に取り入れていくかを模索していく必要がある。今後、本校では生徒が商業科の学びを地域社会に生かすことのできる授業を促進するために、地域の人的・物的資源を活用する実践的な学習を推進するとともに、生徒が地域産業の活性化を牽引するための素養を身に付けさせる授業改善を行っていく。本研究を通して、これらの力を身に付けさせるためには、商業科教員全員が方向性を見据えて進む必要があると分かった。各学科の育成したい人物像を決め、そのためにはどんな力を伸ばしていくか、その力を伸ばすための科目や評価基準の策定、年間計画や授業内容を教員間で共有していく。この研究を新たな出発点として「地域に貢献できる生徒を育成する商業高校」を目指していく。



▲ 新教育課程策定の流れ